

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	菜の花 清田館	評価実施年月日	平成19年5月16日
評価実施構成員氏名	伊東浩一 有木 佐知子 菅野 幸子 堀部 キヨ子 長路 由利子 田中 篤子		
記録者氏名	伊東浩一	記録年月日	平成19年7月7日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「地域とのふれ合いを大切に暮らし」「住み慣れた地域での生活を「笑顔」で送れるよう支援します」との理念を作りホーム内に表示。日常的に確認しケアを行っている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関・たたみ部屋に掲示し、確認している。名札の裏に入れ常に見れるようにしている。朝理念の唱和を行い、やさしいケアを実践している。</p>	○	<p>理念の唱和後に、理念にそった介護が出来ているかどうか、スタッフに確認をしている。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関に掲示し家族や地域の方の目に付きやすいようにしている。ご家族にも契約時に説明している。</p>	○	<p>地区懇談会などを利用して、理念を地域の方に理解していただけるよう取り組んでいく。菜の花便りにも理念を記載し、再度ご家族にも理解してもらう。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>道であったり、ホーム周辺で挨拶を互いに交わしている。畑の収穫物を配りに行ったり、ごみ出し時には声をかけたりもしている。近隣公園で遊ばれている親子との交流も持っている。不定期であるが近隣の方が体操やお茶の時間に来ていただいている。</p>	○	<p>近隣の方が頻繁に気軽に遊びに来れるよう工夫をしていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入している。夏祭り・地域春の一斉清掃・植樹マスの花苗植え・ジンギスカンパーティーなどの行事に参加している。清田区長を囲む地区懇談会に出席して、介護状況と地域とのかかわりを発表している。町内のリサイクル活動にも参加している。</p>	○	<p>6月30日に、清田館主催の夏祭りを行い、多くの地域の方々が参加してくださり、交流を持つことができた。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>散歩時など地域の高齢者に挨拶したり、声をかけたりしている。地域の高齢者に、異変があった場合、その家族に連絡している。見学に来た方の介護相談に応じている。</p>	○	<p>実習生も積極的に受け付けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員に評価表を渡し、それぞれで記入、その後全スタッフと話し合い、自己評価に取り組んでいる。自己評価・外部評価を活かし、指摘されたことは改善し、利用者様のよりよい暮らしを追及している。自己評価・外部評価を交付している。</p>	○	評価結果をもとに全スタッフと検討し、改善に取り組んでいる。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に一度の運営推進会議で、個別ケアの対応について、またインシデントや更にアンケート調査結果についても、率直に報告し、意見・評価を頂きながら、サービス向上に活かしている。</p>	○	運営推進委員会を通して、老人会に利用者様が参加できるような取り組みをしていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>札幌市の介護保険課事業指導係りに、介護についての疑問点を聞いたり、地域からの要望などを伝え、相談に乗っていただき、連携を取ってサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	札幌市主催の管理者会議を利用して、疑問点・要望などを伝えていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>ホーム長・ユニット長会議で研修を受けた。札幌市社会福祉協議会の作成した資料を配布され、ホームのユニット会議でも話し合いが持たれ、資料が配布されている。現在ホームでは活用の該当者がいない。</p>	○	今後必要な入居者には、支援をしていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止の研修を定期的に行い、その内容などを職員全員で確認し、防止に努めている。</p>	○	職員のストレスに対するアンケート調査により職員の利用者に対する、表面には現れない感情や思いを把握することが出来た。全職員が「ご入居者に会うのが楽しみである。入居者の笑顔に喜びを感じている。」ことがわかりご入居者を大切に思っていることがわかった。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>必ず本社職員と共に、利用者様・家族様が十分に納得していただけるよう説明して、契約を結んでいる。入居者の状態変化により、解約する際は、ご家族等と対応・方針を相談し退去となっている。</p>	○	医療が必要な方には何度も病院を訪問し、担当医師・ご家族と十分に検討、納得のうえ退去されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見・不満・苦情など申し送りや、ユニット会議などで改善に向けての話し合いが行われ、家族の方とも相談している。	○	思いを伝えられないご入居者には、言葉や態度・表情から察する努力をしている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者様の暮らしの様子は、月1回の職員手書きのお便りで報告している。また状態に応じて、家族と電話で蜜に連絡を取り合っている。家族が来所されたときは、健康状態や近況報告をしている。金銭管理においては、個人出納簿で出入金の内容を定期的に家族に郵送している。	○	職員の異動等を毎月の菜の花便りで紹介していく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様よりの意見苦情などはスタッフ・管理者・会社に伝えられ家族への早急な対応と改善に努めている。	○	家族会や運営推進会議の家族代表の方より、ご家族の意見を聞いている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のユニット会議で職員の意見や要望を聞き、検討している。また2ヶ月に一度ホーム長・ユニット長リーダー会議が持たれ、職員の意見や提案を聞く機会が設けられ、反映されている。	○	運営者・管理者に対して、日頃聞けないことをアンケート調査の中から把握し、運営に反映させていく取り組みを行っている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の体調などにより、必要な時間帯に職員が確保できるよう検討し、勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新入職員は必ず入居者様に紹介し、早くなじみの関係になれるようにしている。体調不良などによる離職者も利用者様一人ひとりに挨拶し、明るい雰囲気でのお別れを行っている。ご家族にも充分説明を行っている。	○	異動・離職がやむおえないときは、利用者に対する引継ぎを徹底して行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>教育課があり、職員のレベルアップのための研修も活発に行われている。(全国認知症グループホーム大会、ケアプラン指導研修会、スタッフ研修会、高齢者に多い病気、緊急時の対応など。)ユニットごとに年間研修計画を作成し研修も行われている。働きながら、介護事務の講座を学んでいる者もいる。</p>	<p>○</p> <p>研修参加者は復命書を書き、伝達講習も行っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>清田区グループホーム地区連絡会議が定期的に行われ、交流会・研修会・親睦会がもたれサービス向上にむけ取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>他グループホームとの見学や事例検討会等を多く実施して行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームがあり、休憩することが出来る。不定期ながら、食事会、親睦会も行われている。アンケートなどで、職員の意見を聞き、アドバイスしている。いつでも相談できる環境作りに努めている。事業部長も頻回にホームに来て、相談に乗り、アドバイスをしている。</p>	<p>○</p> <p>全職員に向け、ストレスに関するアンケート調査を実施した。その結果をもとに、ストレス軽減に向け検討中である。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>時給等資格に応じて昇給などがある。さらに人事考課を実施している。</p>	<p>○</p> <p>運営者や事業部長が頻回に訪問し、悩みを聞いたり業務の状況を把握している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時ご本人の住居・病院を訪問し、意向や生い立ち・不安なこと・どのように暮らしたいかなど傾聴し、気軽に話し合える機会がもたれている。時にはグループホームの見学をしてもらい、納得後入居していただくこともある。</p>	<p>○</p> <p>体験入居も行われているが、利用している人がいない。今後積極的に取り入れていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人やご家族の思い・状況を確認し、改善するため、住居・病院を訪問し、家族様から生い立ち・病歴・不安なこと・どのように過ごしていただきたいかなど傾聴し、話し合う機会がもたれている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の在宅での介護の大変さや悩んでいたことを、充分話せる環境作りをし、傾聴している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人にとって、家族にとって最善の環境、サービスを本人・家族の立場に立って対応している。	○	ご家族とどうサービスにつなげる必要があるか、情報収集して時には他のケアマネージャーとも検討するよう努めていきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	共同生活であるため、まず見学に来ていただき、一緒にレクに参加していただき、お茶を飲んでいただき、人間関係を築き、溶け込むことができるよう工夫している。	○	スタッフが自宅を訪問し、自宅での生活やご本人の部屋を見せていただきながらなじみの関係が築けるよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	同じ目線に立ち、本人の悩みやお話を傾聴したり、入居者様同士のかかわりを楽しんでいただけるように関わったり、共に家事をし、喜怒哀楽を共にしている。感謝の言葉をかけ、互いに支えあう関係が築かれている。入居者様に時には教えてもらうときもある。	○	支援する側支援される側という関係にならないよう、共に生活しているという視点で、暮らしが出来るよう努めている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の日々の生活をまめに伝え、家族の方と相談をしている。外出・外泊の機会を持つことで、家族と一緒に過ごす時間を持っていただき、その経過を家族と情報交換していく。レク活動や外出ツアーにも参加していただき、喜怒哀楽を共にしている。	○	外出やレク活動に、ご家族がもっと参加できるよう工夫していきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	個々の近況報告としてミニ便りを送付している。来所時にはお茶を飲みながら入居前の略歴などざっくばらんに話していただきよりよいケアを行うことを探求し、支援している。	○	ご家族様と一緒に過ごせるよう、外出外泊を勧めたり、ホームでの行事にも参加を促している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の方にはなるべく訪問していただき、更に一緒に外出していただけるようお話している。兄弟姉妹も気軽に訪問されるよう伝えている。馴染みの美容室や自宅にもご家族と共に出かけしている。	○	非常にかわいがっていた愛犬を連れて家族が面会に来る。またお孫さんや曾孫さんも面会に来ている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様の人間関係を全スタッフが把握し、一人ひとりが孤立しないようスタッフが中に入ったり、利用者様同士のコミュニケーションを促している。入居者様が仲良く話し合えるように職員が調整役となり、食事やお茶の時間もご利用者同士の関係が円滑に行くように働きかけている。	○	ご入居者がお手伝いをしていく中で利用者様同士が仲良くなり、関係が円滑になるように対応している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去されたそのご家族様も、顔を見せてくださり、入居者様とも仲良く会話を楽しまれている。	○	退去後もホームでの行事(夏祭り等)の案内をしている。退去後のご家族様より、畑の収穫物を届けてくれている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自宅での生活をしたいと考えていらっしゃる入居者様には、希望などを聞き、少しでも自宅での生活に近付けるように考えている。困難な場合にも職員と話し合い、本人の立場に立ち、自分の親だったらどうするかとの観点から本人の意向に近づけている。	○	ご入居者が職員に伝えられないような思いや、日々の行動や表情、サインから把握するよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴・暮らし方などご家族様に情報を聞き、さらにご利用者の話の中から情報の把握に努めている。	○	入居後も面会にいらした親類や知人からもそれとなくこれまでの生活歴について聞くようにしている。(個人情報 を考慮しながら、把握している。)キーパーソンにはセンター方式のAシートに記入していただいている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各担当者が利用者のアセスメントを行い、一日の過ごし方、心身状態は毎日全職員に伝達できるよう日々申し送りし、連絡ノートにて伝達している。ユニット会議でも共有している。	○	出来ることや出来そうなことをしていただけるよう支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族・本人より情報・意向を聞き出し、一か月に一度のユニット会議の中で介護計画の検討を行い、介護計画の作成に活かしている。定期的な外出・外泊の援助も視野に入れながら検討している。	○	担当者がアセスメントと介護計画のモニタリングをし、カンファレンスの中で課題や介護サービスについて家族・ご本人の意向を含め、全職員で検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	入居者様の希望や家族様の要望があった際はその都度介護計画の見直しを行っている。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	飲水量・食事量・排泄状態・バイタルなどの身体状況および日々の生活の様子や言葉なども個別記録に記入し、実践に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	○	家族の状況に応じて、通院など必要な支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	ボランティアへの協力を、呼びかけていきたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	地域包括センターと、地域周辺の情報交換をもっと強化していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回の訪問診療がもたれ、医師と相談しながら、日常の健康管理をしている。その他複数の医療機関と関係を密にしている。	○	看護師が常勤しており、訪問診療の医師との連絡が密に取れている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医師との関係を築きながら支援を行っている。何か問題があるときも医師との連携を持ち、指示や助言をもらっている。	○	認知症の専門医の受診が必要なときはその都度専門医の診療を受けている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が確保されている。常勤の看護師により週1度の健康管理が行われている。	○	常勤されているので、ご入居者の状態変化に応じた支援をしている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合、病院を訪問したり、医師・看護師と情報交換を行っている。また家族とも情報を交換しながら状況等を把握し、早期に退院できるようアプローチしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化した場合の対応指針の同意書をいただいている。病状により家族様の希望を考慮し医師・家族様・職員などで話し合いをし、方針を共有している。	○	終末期にはご家族・医師・看護師と話し合いを持ち、今後の介護につなげている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	出来るだけホームでとにも過ごしていただくよう備えは出来ている。医師との話し合いにて、出来ることと出来ないことなどをご家族・スタッフと相談している。	○	終末期のご入居者を支えるために、スタッフの資質を高めるための育成を図り、さらに他のご入居者への影響も考慮して対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人の意見・家族の意見を十分に聞き入れ移り住む居宅の情報も収集し、明るいイメージをもてるようにお話しをしている。また他の事業所から必要なアセスメントやサービスの支援状況等について情報交換をしている。	○	住み替え希望者については、アセスメント・ケアプラン、日々の生活情報等を事業所に渡し情報交換していき、同じ介護を受けられるように対応した。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者様一人一人を、長い人生経験をもった大先輩として、言葉かけや対応を心がけている。個人情報 は人目に触れないよう管理している。	○	スタッフは入居者のプライバシーに関することを、他者に他言しない事を厳守している。社内の研修で意識の向上に努めている。入職時に個人情報の守秘義務について誓約書を取り交わしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	難聴の人にはゆっくりと話し、時には手紙にしりして伝達している。食事の献立や外出、着替えなど入居者様一人一人の希望で、選んでもらえるような場面や対応を心がけている。	○	毎月行っている、外出についてはレストランよりメニュー表を事前にお借りして、ご入居者に見ていただき、決めていただいている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のその日の状態やペースや希望にあわせて柔軟に対応している。起床や入浴時間、食事にかかる時間などについて本人のペースに合わせて対応している。リビングで自由に過ごしていただいたり、外出や散歩も本人の意向を必ず尋ねている。	○	朝寝坊をしたり夜も好きな時間(23時頃までフロアでテレビを見ている。)に就寝されたり、入居者のペースにそって生活がされている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎月1回訪問理美容にて、本人の希望を伺いパーマ・髪染めなども行っている。ネイルのカラーリングも行っている。季節感、個性を大切に支援している。	○	高価なネックレスやブローチ・指輪など、ご入居者が希望すれば、ご家族と相談して身に着けている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	栄養士に栄養を管理していただいているが、本人の好みを出来るだけ取り入れ楽しんでいただけるようにしている。利用者の方にも調理場に立っていただき、一緒に食事の準備を行っている。食事の前には嚥下体操を行ない、スタッフも一緒に食事し、片付けもともに行っている。	○	ご利用者と畑の収穫物を取ってきて、その日の料理に使用している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好きな飲み物や手作りのおやつなど、利用者様の好みを汲み取って、日常的に支援している。自己管理できる利用者様はおやつを自室で楽しませている。読書しながら、おやつを召し上がり、至福のひと時を過ごされている。	○	職員は入居者様の嗜好物を把握しており、飲み物についても好きなものを飲んでいただいている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の間隔を把握し、トイレで排泄ができるように誘導支援している。誘導を拒否される方もいますが、職員を変えて常に気持ちよく排泄できるよう支援している。ご入居者の状態により、夜間はベッドサイドにポータブルトイレを設置し、排尿していただいている方もいる。	○	トイレ誘導により、日中失禁回数が非常に少なくなってきた。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週に2回以上の入浴を、本人に合った入浴方法でゆっくりと入浴していただけるよう支援している。日曜日は足浴を楽しませている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝が必要な方はベッドに誘導したり、ソファでくつろぎたい方には、ソファに誘導して休んでいただいている。夜間は毎時間巡回し、寝付かれない方には、その時々にお話を聞いたり、安心して眠れるように支援している。	○	眠れない方に対しては、コミュニケーションをとり温かい飲み物を飲んでいただいている。時には添い寝をして寝ていただくこともある。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の特技・興味に対応しながら、気分転換が図れるよう、また役割を決め、残存機能を低下させないよう支援している。掃除・調理・洗濯物たたみ・マッサージ・血洗い・皿ふき・散歩・買物・歌など喜びある毎日を過ごせるよう支援している。	○	畑の草取りや地域の行事に参加し楽しませている。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物の好きな利用者様には、一緒にコンビニに同行し、ご自分で買って領収書をいただいている。紛失を考慮し、事務所の金庫にて保管しているが、必要な時はいつでも使用できるように支援している。	○	今後ご家族と相談のうえ、紛失してもいい金額を持っていただくよう支援したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	朝のゴミだし、天気の良い日は外での散歩をしている。ホームの回りの花壇や畑に行き、畑作り、野菜の収穫・雑草を取ったりもし、外出希望の方は、個別に買物や外出をしている。	○	近くの喫茶店に行って、ケーキと飲み物を召しあがってゆっくりくつろいでいる。またお弁当を持って外出することもある。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族の協力を得て、外出ツアーを毎月行っている。温泉、よさこいソーラン、動物園、水族館、小樽の海、レストランなどへ行って楽しまれている。	○	ご入居者と相談しながら、今後も毎月外出や、行事を継続していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話で家族の方と話していただくよう支援している。	○	毎月スタッフがご家族へ近況報告をしている。そのお便りの中にご本人が書けるメッセージの欄を作り、書いてもらうか、ご利用者様の声を代筆するようしていきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が来訪した際にはお茶を出し、ゆっくり過ごしていただける環境作りに努めている。その際身体状況や近況報告をしている。いつでも気軽に訪問できるよう工夫をしている。	○	面会時間は決まっておらず、ご家族の都合のよい時間に訪問していただいている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束しない介護ケアに取り組んでいる。身体拘束予防のための外部研修の伝達を、ユニット会議にて報告、拘束について再認識している。言葉遣いや態度、スタッフのレベルアップにも取り組んでいる。	○	本社主催の拘束防止の研修には全職員が受講している。言葉による拘束がないか、職員間で確認しあっている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中鍵はかけていない。外出願望の兆候見られるときは、一緒に外出し安心感を持っていただいている。職員は玄関センサーで玄関での様子を把握しているが、フロアでの見守りを徹底している。また料理をしながらさりげなく見守りしている。	○	ご入居者の表情や状態をきめ細かく観察し、出かけそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけ、散歩に出かけたり、畑の好きな方には草取りをしたり、自由にお過ごしていただけるような対応をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者様の様子・所在を確認し、スタッフ間で連携を取りながら、安全を確認している。ご入居者がくつろいでいるリビングで記録等を行いながら、見守りをしている。	○	夜間帯は1時間ごとに巡回して、優先順位を考慮し、職員の居場所を決め、いつでも対応できるようにしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要なものについては危険を避けるため、保管場所を決めている。異食の可能性のある入居者様については物の置き場所に注意している。、場所を変えたり、使用する時、事前にさりげなく、置いたりしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	もし事故があった場合は、インシデント報告や、ひやりハット報告を提出し、スタッフ間で検討・事故の原因を探り、再発防止に努めている。また本社からの指導もある。	○	緊急時に備えてイメージトレーニングをしていき、事故防止に取り組んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力により、救急救命法の研修を受けたり、定期的な研修に参加している。緊急時対応のマニュアルを作成し活用している	○	町内の消防署で行われている応急手当講習会に職員を参加させて、すべての職員が対応できるようにしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回防災訓練が行われ、消火器の使い方などの訓練を実施している。避難口として、デイサービスの玄関、1階のベランダより避難できるように訓練している。	○	運営推進会議で町内会長に災害時近隣者の協力が得られるようお願いしている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒の可能性のある方には、ご家族様とも相談し、対応策を話し合っている。活動や外出等でリスクがあることをご家族様にも説明、理解を得ていただけるよう話している。	○	転倒の危険のある方についても、そのリスクをご家族様に説明、対応策をご家族と検討し、了解を得るようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握、さらに毎日バイタル測定を行ない、唇の色・顔色・爪の色など異状があればユニット長・ホーム長に連絡、訪問診療医師にも報告し指示を仰いでいる。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は服薬の目的を理解して、支援している。薬の説明書も個人のファイルにあり、いつでも調べられるようにしている。誤薬回避のため、その都度本人の前で名前を読み上げ、さらに服薬できているか確認をしている。薬が変更されたときは、全職員が把握できるように、連絡ノートに記載している。薬の副作用については、看護師から全スタッフに説明、さらに連絡ノートに記載している。	○	誤薬をしないために3回の確認を徹底している。薬を手にとったときの確認、薬の袋を破いたとき、飲ませようとするときは、薬の袋に書かれている名前を読み上げる。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	予防と対応のため、毎朝の牛乳・水分摂取の促し・散歩・体操・腹部マッサージを行ない、排便を促している。また排便の状況も確認、排便チェック表にて管理している。	○	食材の工夫はしているが、繊維の多い飲み物を取り入れていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	スタッフが口腔内の清潔保持の必要性を充分理解している。食前のうがい、毎食後の歯みがきを見守り、また歯間ブラシが必要な方はしている。さらに就寝前は義歯の洗浄を行い、ポリドントにつけている。	○	社内教育の一環として実施している、新人教育・スタッフ教育にも口腔ケアの重要性について研修し理解を得ている。訪問歯科より口腔ケアについてのパンフレットをいただき、勉強会をひらいた。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立を作成し、カロリーや栄養バランスに配慮している。飲水量や食事摂取量をチェック表により管理され、1日1300ml以上の飲水を促している。水分が足りない場合は、ゼリーなどで対応している。	○	嚥下状態により刻みにしたり、食べやすい状態に工夫し食べていただいている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防対応として、入居者様、スタッフ全員が予防接種を受けている。職員・家族様も手洗いうがいを行っている。寝具の清潔、部屋の温度調整、朝・夕のホーム内(手すり・トイレ・洗面所・椅子・ドア・居室内の取っ手)を次亜塩素酸ナトリウムによる消毒清掃も行われている。またペーパータオルを使用している。マニュアルを作成し、それに準じて対応している。	○	特にインフルエンザやノロウイルスの流行期間は、マニュアルどおりに実施されているか介護部長のチェックと指導があった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、布巾・まな板・包丁などの消毒をし、チェック表にサインをしている。食材も一日おきに、新鮮なものが配達され、食品の管理衛生に努めている。冷蔵庫や冷凍庫内の食品の賞味期限の点検と掃除もしている。	○	栄養士が定期的に、在庫管理と賞味期限のチェックに来ている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のまわりに花を植え、家庭的な雰囲気心がけている。明るく、清潔を保っている。	○	大きくて、見やすい表札を取り付けた。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレの照明は自動点灯。リビング・居室は自然採光が入りいつも明るい。季節に合った装飾を行ない、四季の変化を楽しんでいただいている。家庭的な雰囲気のある共用空間づくりを行っている。明るく清潔であり、入居者が落ちついて過ごせるような空間が作られている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓テーブル・ソファ・畳部屋があり、自分の好きな場所で、気の合った者同士が談笑したり、休まれたり、思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた生活用品・タンス・ベッド・仏壇などが持ち込まれている。写真など思い出の品物も持ちこまれて、落ちついて過ごせるような配慮をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	風通しのよくなるよう居宅・ベランダの換気をこまめに行っている。利用者の状況にあわせて、温度・湿度も調整している。	○	換気口の清掃を定期的に行っている。よどんだ空気にならないように空気の入れ替えを行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差をなくし、手すりが設置され、車椅子も自分で自走できるように環境が整えられている。またトイレや浴室にも手すりを設置し、安全に配慮している。	○	入居者の方が作業しやすいように、物干しの高さを自動調節できる物にしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	リビングに時計・手作りのカレンダーを設置している。自分のお部屋がわかるよう、表札に似顔絵が描かれている。また混乱や失敗が生じたときは職員間で話し合い、不安のない取り組みを試みている。	○	一人ひとりの何がわかりにくいのかをしっかりと把握し、状況に応じて対応している。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇・畑に行き、作物やお花など見たり作ったり楽しまれている。また、天気の良い日は、ベランダにて日光浴として生まれ心の安らぎを感じられるような、スペースとして活かされている。	○	畑に行き、草取りや収穫をし、楽しめる環境がある。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ◎② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ◎① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ◎① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ◎② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ◎① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ◎① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ◎① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ◎① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ◎③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>◎①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ◎②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ◎②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>◎①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

午前の吉幾三体操とティータイム、午後のパワーアップ体操とおやつを通してコミュニケーションを図っている。
階段の上り下り、デイサービスまでの歩行により下肢筋力の向上、晴れた日は公園までの散歩を実施している。
おいしいお食事・ゆとりある介護・笑顔のある暮らしに力を入れて介護しています。毎月普段行けないところへの行事を計画し、実施している。